

モモ園における スピードスプレーヤ散布液の到達性を改善する方法

福島県農業総合センター果樹研究所
平成18年度農業総合センター試験成績概要

1 部門名

果樹 - モモ - 病害虫防除
分類コード 04-02-23000000

2 担当者

志村浩雄・永山宏一・畠良七・木幡栄子・尾形正

3 要旨

モモ樹におけるスピードスプレーヤによる散布液の到達性は、主幹付近の樹冠上部で劣りやすく、ドリフト軽減ノズルを使用した場合や噴霧圧力、送風機風量を抑えた場合は到達性がさらに低下しやすい。散布液の到達性を改善するためには、主枝の開張度を大きくして、低樹高化を図るとともに、到達性が劣る部位に枝を配置しないこと、枝葉の繁茂期には夏季・秋季せん定により樹冠内の繁茂状態を改善することが必要である。

- (1) スピードスプレーヤによる散布液の到達性は、通路側の部位は良好であるが、主幹に近い部位ほど劣り、特に樹冠上部ほど不良である。
- (2) 高さ別に散布液の到達性を比較すると、主幹に近い部位では3m以上の部位で、主幹から遠い部位では3.5m以上の部位で劣る傾向が見られた。
- (3) 秋季せん定により散布液の到達性は向上し、特に、高さ1.5m以下の低い部位の到達性が改善された。
- (4) ドリフト軽減ノズルを使用する場合や、噴霧圧力を下げて散布する場合は、慣行の散布に比較して散布液の到達性が劣るので、低樹高化などの樹形改善や、夏季・秋季せん定により枝葉の繁茂を改善する必要がある。
- (5) ドリフト軽減を目的に送風機風量を下げる場合は、樹冠上部における散布液の到達性が劣りやすいので、樹形改善や夏季・秋季せん定により付着性を改善する必要がある。
- (6) スピードスプレーヤによる散布液の到達性を改善するためには、主枝の開張度を大きくして、低樹高化を図るとともに、到達性が劣る部位に枝を配置しないこと、枝葉の繁茂期には夏季・秋季せん定により樹冠内の繁茂状態を改善することが必要である。

4 その他の資料等

- (1) 平成17年度福島県果樹試験場試験研究成績書